

リハビリテーション科学部の新設と 本学の将来構想について

先進諸国、とりわけ日本で急激なスピードで進行している少子化および高齢化は、子育てや老人福祉などのあり方を、早急に解決すべき課題として私たちに迫っています。本学はこうした時代に即応するために、地域医療へ貢献する「新医療人育成の北の拠点」として、2013年4月にリハビリテーション科学部を新設(指定学校申請中)し、医療系総合大学としてさらに進化します。

リハビリテーション科学部の 設置背景と教育目的

少子化および高齢化は、これまでとは異なる枠組みで捉え直さなければならないさまざまな問題を、私たちに提起しています。日本では少子化が進む反面、発達障害などのある子どもが増加し、それによる特別支援教育希望者の増大、障害の重度化・重複化など、小児領域でのリハビリテーションサービスの整備・充実への要請が高まっています。一方、急激なスピードで到達した超高齢社会においては、高齢者の社会参加を保障する心身の健康維持・増進が重要な課題となっていくと考えられます。

とくに北海道では、地域特性である積雪・寒冷が高齢者の活動性と心身機能の低下を招いています。またその広域性は、保健・医療・福祉の関連機関と人材の供給・配置における地域間格

差を拡大させています。こうした地域特性から生じる問題の克服には、理学療法士や作業療法士による運動の習慣化を通じた日常の活動性の向上などが重要です。さらに、あらゆる医療従事者の連携と協働によって、肺炎、脳卒中、心筋梗塞などの疾病を誘発するリスクの高い生活習慣病の予防や、高齢期に特徴的な認知症やうつ病などの疾患を早期発見することが求められています。

すなわち、これからの地域社会においては、医学の進歩や医療の拡充、またチーム医療を実践できる制度や人材供給・配置が必要であることに加えて、1次予防(健康増進と疾病予防)、2次予防(早期発見と合併症対策)、3次予防(再発予防とリハビリテーション)に関する総合的知識と、リハビリテーション科学に基づいた技術をもつ専門職能人の育成が重要となっています。また、知識や技術だけではなく、豊かな教養と人間性が強く求められています。

本学は「新医療人育成の北の拠点を旨とする」ことを行動目標として、1974年の開学以来1万5千人を超える卒業生を送り出してきました。リハビリテーション科学部は「保健と医療と福祉の連携・統合教育の推進」という本学の教育理念のもと、医療系総合大学ならではの教育資源を生かし、チーム医療を実践できる高度な理学療法士および作業療法士を養成することを目的とします。また、学内には新たな附属臨床施設を設置し、地域住民を対象にリハビリテーションを提供するとともに、リハビリテーション科学部の臨床教育にも活用する予定です。さらに、理学療法・作業療法分野では道内の私大で初となる大学院を開設し、すべての理学療法士・作業療法士を対象にキャリア支援を行うステージとして教育・研究活動を展開する予定です。これからの地域医療の発展に貢献するために、北海道医療大学はさらに進化します。



2012年7月29日の北海道新聞朝刊に対談記事が掲載
新川昭夫学長とFM北海道アナウンサーである千葉ひろみさんが、これからの地域社会とリハビリテーション科学部新設の関係について対談。その様子が記事として掲載されました。

リハビリテーション科学部の 基本教育方針と特色

リハビリテーション科学部では、他学部と連携した教育を展開。医学的知識を学び他の専門職種への理解を深める医療系総合大学ならではのカリキュラムで、チーム医療を実践できる能力を育成します。また、地域社会へ貢献する人材を育成するために、コミュニケーション能力を高める演習を実施。臨床実習では、1年次から4年次まで多彩な領域を経験します。

[他学部との連携] [地域社会への貢献]



● 医科学系科目の充実

医療系総合大学ならではの教育資源を生かし、理学療法士・作業療法士に必要な生理学や解剖学などの知識と技術を深く学ぶことができます。歯学部との連携で人体解剖実習を行うなど、他学部で教育・研究活動を行っている教授陣が担当する科目も多数あり、ハイレベルな講義や演習を展開します。

● チーム医療の理解と実践

他学部の学生とグループワークやディスカッションを行う科目、看護福祉学部との連携で老年期ケアや小児ケア、ソーシャルワーク論などを学ぶ科目、心理学部との連携で心理学、社会的アプローチを学ぶ科目など、学部学科の枠を越えたカリキュラムを編成。多職種が連携するチーム医療を実践的に学びます。

● コミュニケーション能力の育成

薬学部や歯学部でも長年にわたって行われている、地域住民の方々の協力による模擬患者面接の演習を実施。実際の臨床の場面に極めて近い環境で医療面接の演習を行うことで、リハビリテーション専門職に求められる面接技術や対応力はもちろん、医療人に必要とされる豊かな人間性を育成します。